

国 語

注 意 事 項

- I 試験開始の指示があるまで問題用紙を開いてはいけません。
- II 解答用紙はすべてHBの黒鉛筆で記入すること。(シャープペンシルは、HB0.5mm以上であれば使用可。)
HBの黒鉛筆又は0.5mm以上のシャープペンシル・消しゴムを忘れた人は監督者に申し出てください。
【万年筆・ボールペン・サインペンなどを使用してはいけません。】
- III 試験時間は75分です。
- IV 問題は19ページで2問です。

マークセンス方式について

マークセンス方式とは、鉛筆でマークした部分を機械が直接よみとって採点する方式です。
マークに際しては、下記の注意事項を熟読のうえ、間違いないように慎重に行ってください。

マーク記入上の注意

1. 解答欄にマークするときは、HBの黒鉛筆か0.5mm以上のシャープペンシルで次の正しい例のように、濃く正確にぬりつぶしてください。

2. マークのしかた

(ア) 正しい例

- a 解答が1つの場合、例えば2と解答するときは

1

①	●	③	④	⑤
---	---	---	---	---

 のように、マークしてください。

- b 解答が2つの場合、例えば2と3と解答するときは

1

①	●	③	④	⑤
①	②	●	④	⑤

 または 1

①	②	●	④	⑤
①	●	③	④	⑤

 のように各1つずつマークしてください。

(イ) 悪い例

1	①	○	③	④	⑤	このような記入をしてはいけません。
2	①	②	③	④	⑤	
3	①	②	③	④	⑤	
4	①	②	③	④	⑤	
5	①	●	●	④	⑤	

○で囲む。
全部をぬりつぶしていない。
レ印をつける。
I印をつける。
1欄に2つ以上マークする。

3. 一度記入したマークを訂正する場合は、消しゴムで完全に消してから記入しなおしてください。

1

①	●	③	④	⑤
---	---	---	---	---

 のように×印をしても消したことになります。

4. 解答用紙を折りまげたり、破ったり、また汚したりしないでください。

二 次の文章は、藤原道長の娘彰子が一条天皇の許へ入内する折に新調された屏風びよらぶにまつわる話である。これを読んで、後の問いに答えよ。(配点70点)

今は昔、女院内裏へはじめて入らせおはしましけるに、御屏風ごびよらぶどもをせさせ給ひて、歌詠みどもに詠ませさせ給ひけるに、A、藤の花おもしろく咲きたりけるを、四條大納言あたりて詠み給ひけるに、その日になりて、人々歌ども持てまゐりたりけるに、大納言遅くまゐりければ、御使して、遅きよしをたびたび仰せられつかはす。権大納言行成、御屏風たまはりて、書くべきよし申し給ひければ、いよいよ立ち居待たせ給ふほどに、まゐり給へれば、「歌詠みども、はかばかしきどももえ詠み出でぬに、さりと」と、誰も心にくがりけるに、御前にまゐり給ふや遅きと、殿の、「いかにぞ、あの歌は。遅し」と仰せられければ、「さらにはかばかしく仕らず。わろくて奉りたらんは、Bには劣りたる事なり。歌詠むもがらの、すぐれたらん中に、はかばかしからぬ歌書かれたらむ、長き名に候ふべし」とやうに、いみじく逃れ申し給へど、殿、「あるべき事にもあらず。異人の歌なくともありなむ。御歌なくは、大方、色紙形を書くまじき事なり」など、まめやかに責め申させ給へば、大納言、「いみじく候ふわざかな。此度は、誰もえ詠みえぬ度に侍るめり。中にも長能をこそ、さりとともと思ひ給へつるに、「岸の柳」といふ事を詠みたれば、いと異様な事なりかし。これらだにかく詠みそこなへば、公任は、え詠み侍らぬもことわりなれば、許したぶべきなり」とさまさまに逃れ申し給へど、殿あやにくに責めさせ給へば、大納言いみじく思ひわづらひて、懐より、陸奥むつみに紙に書きて奉り給へば、ひろげて前に置かせ給ふに、帥殿すゑのとのよりはじめて、そこの上達部、殿上人、心にくく思ひければ、「さりととも、この大納言故なくは詠み給はじ」と思ひつつ、いつしか、帥殿読み上げ給へば、

紫の雲とぞ見ゆる藤の花いかなる宿のしるしなるらん

と読み上げ給ふを聞きてなむ、ほめののしりける。大納言も、殿をはじめ、みな人いみじと思ふ気色を見給ひて、「今なむ、胸すこし落ちる侍りぬ」など申し給ひける。

(『古本説話集』による)

* 四條大納言よしかの＝藤原公任。博学多才で、漢詩・和歌・音楽に通じていた。

* 権大納言行成けんなんごんぎょうせい＝藤原行成。三蹟の一人で能書家として知られる。

* 長能ながのぶ＝当時活躍した歌人。

*岸の柳＝「岸」が彼岸に通じ、「柳」が離別を暗示することから、祝いの場にはふさわしくないと考えられる。

*帥殿＝藤原伊周（これら）。道長の甥。

問一 傍線部 x 「帥殿」、y 「上達部」の読みとして最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、その番号をマークせよ。

解答欄 x 〓 y 〓

x 「帥殿」 ① しでん ② すいどの ③ かみどの ④ そちどの ⑤ しどの

y 「上達部」 ① かんだちめ ② じょうたつぶ ③ くものうへびと ④ うへつおみ ⑤ うへたつめ

問二 二重傍線部 a～e の助動詞の意味として、最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、その番号をマークせよ。

解答欄 a 〓 b 〓 c 〓 d 〓 e 〓

① 打消 ② 打消推量 ③ 現在推量 ④ 完了（存続） ⑤ 受身

⑥ 可能 ⑦ 尊敬 ⑧ 使役 ⑨ 推量 ⑩ 断定

問三 傍線部ア「よし」、イ「まめやかに」、ウ「そこらの」、エ「ほめののしりける」、の意味として、最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、その番号をマークせよ。

解答欄 ア 〓 イ 〓 ウ 〓 エ 〓

ア よし

- | | | | | |
|----|----|---|----|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| 理由 | 方法 | 旨 | 由緒 | 縁 |

イ まめやかに

- ① 激しく
- ② 事細かに
- ③ 無情に
- ④ 真剣に
- ⑤ 穏やかに

ウ そこの

- ① 高貴な
- ② それ相応の
- ③ その場にいた
- ④ すべての
- ⑤ 大勢の

エ ほめののしりける

- ① 大声でほめそやした
- ② ほめたりけなしたりした
- ③ ほめつづけた
- ④ ほめるどころの騒ぎではなかった
- ⑤ 声を上げて非難した

問四 空欄 A には旧暦四月の異称が入る。それを、次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

- ① むつき
- ② きざらぎ
- ③ うづき
- ④ ながつき
- ⑤ はつき

解答欄

33

問五 傍線部①～④の動作の主体として最も適当なものを、それぞれ次の中から一つずつ選び、その番号をマークせよ。なお、同じものを重ねて用いてもよい。

解答欄

① || 34

② || 35

③ || 36

④ || 37

- ① 道長 ② 彰子 ③ 公任 ④ 行成 ⑤ 長能 ⑥ 伊周 ⑦ 上達部・殿上人

問六 傍線部1「立ち居待たせ給ふ」とあるが、これは誰のどのような様子を表しているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

解答欄

38

- ① 行成の、屏風に字を書くのに自信のない様子。
② 行成の、じっくり事にあたろうとする様子。
③ 道長の、落ち着かずじれている様子。
④ 道長の、憤然と公任を迎えようとする様子。
⑤ 歌人たちの、その場にいたたまれない様子。

問七 傍線部2「さりととも」とはどういうことを言っているのか、その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選び、その番号をマークせよ。

解答欄

39

- ① 今回は歌人たちもたいした歌を詠めないのも仕方ないということ。
② たいした歌を詠めない歌人に対して道長のお叱りがあるだろうということ。
③ わざと遅れて来た公任の態度は奥ゆかしくすぐれたものだということ。
④ 他の歌人が詠めない以上公任もたいした歌は詠めないだろうということ。
⑤ 公任ならば他の歌人とは違い立派な歌を持ってきただろうということ。